くり返しシート

データの分析と活用①　度数分布表

（　　）組（　　）番　名前（　　　　　　　　　　　）

次の資料は，ある中学校の生徒 30 人の身長（cm）です。この資料を「度数分布表」に整理して，資料をわかりやすくしましょう。

165.6	162.8	163.5	159.9	167.8	160.0	165.1	159.1	157.4	163.3
167.5	167.1	159.8	156.5	164.5	151.7	164.0	157.5	162.4	166.3
169.6	159.4	160.2	161.3	170.4	163.5	163.8	165.2	153.8	162.4

150cm 以上 154cm 未満を階級の 1 つとして，どの階級も幅が等しい度数分布表をつくると，下のようになります。

身長（cm）	階級値	度数(人)	累積度数(人)
150 以上 154 未満	152	2	2
154 ～ 158	156	3	5
158 ～ 162	160	7	12
162 ～ 166	164	12	24
166 ～ 170	168	5	29
170 ～ 174	172	1	30
計		30	

(1)　上の表の空らんをうめなさい。

(2)　階級の幅を求めなさい。　4

(3)　度数が最も多い階級を求めなさい。　162cm 以上 166cm 未満

(4)　度数が最も少ない階級を求めなさい。　170cm 以上 174cm 未満

(5)　身長が 162cm 未満の人数は何人か求めなさい。　12 人

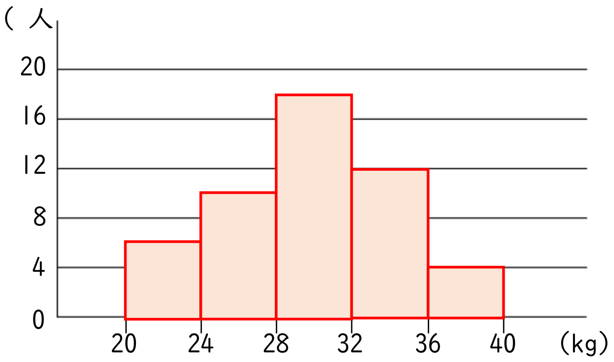
くり返しシート

データの分析と活用②　ヒストグラム，度数折れ線

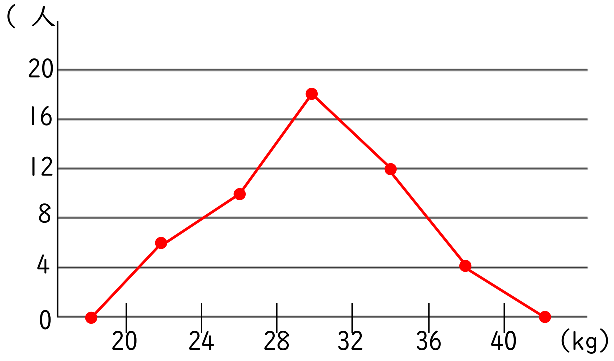
（　　）組（　　）番　名前（　　　　　　　　　　）

ある中学校の生徒 50 人の握力について調べたところ，結果は右の度数分布表のようになりました。この度数分布表から，ヒストグラムと度数折れ線を，それぞれつくりなさい。

握力（kg）	階級値	度数（人）
20 以上 24 未満	22	6
24～28	26	10
28～32	30	18
32～36	34	12
36～40	38	4
計		50



ヒストグラム



度数折れ線

くり返しシート

データの分析と活用③　相対度数

（　　）組（　　）番　名前（　　　　　　　　　　　）

Ａ中学校の生徒 30 人とＢ中学校の生徒 200 人について，通学時間を調べたところ，次の度数分布表のようになりました。

Ａ中学校

通学時間(分)	度数(人)	相対度数
10 以上 20 未満	15	0.5
20～30	9	0.3
30～40	6	0.2
計	30	1

Ｂ中学校

通学時間(分)	度数(人)	相対度数
10 以上 20 未満	120	0.6
20～30	48	0.24
30～40	32	0.16
計	200	1

(1)　Ａ中学校，Ｂ中学校において，相対度数を求め，上の表の空らんをうめなさい。

(2)　通学時間が 10 分以上 20 分未満の生徒の割合が多いのは，Ａ中学校とＢ中学校のどちらですか。

Ｂ中学校

(3)　通学時間が 20 分以上 30 分未満の生徒の割合が多いのは，Ａ中学校とＢ中学校のどちらですか。

Ａ中学校

(4)　通学時間が 30 分以上 40 分未満の生徒の割合が多いのは，Ａ中学校とＢ中学校のどちらですか。

Ａ中学校

くり返しシート

データの分析と活用④　代表値

（　　）組（　　）番　名前（　　　　　　　　　　　　　）

空らんにあてはまる値を書き入れなさい。

(1)　【範囲（レンジ）】データの最大の値と最小の値の差を，分布の範囲（または「レンジ」といいます。）　範囲＝最大値－最小値

【データ】

42　31　26　28

上のデータの範囲は，16となります。

(2)　【中央値（メジアン）】データの値を大きさの順に並べたとき，その中央の値を中央値（または「メジアン」）といいます。データの総数が偶数のときは，中央にある２つの値の平均値を中央値とします。

【データ１】（データの総数が偶数）

20　30　40　50

【データ２】（データの総数が奇数）

20　30　40

データ１の中央値は35，データ２の中央値は30となります。

(3)　【最頻値（モード）】データの値の中で，最も多く現れる値を最頻値（または「モード」）といいます。

【データ】

4　3　4　4　2

上のデータの最頻値は，4となります。

(4)　【平均値】平均のこと。データの値として表現するときは平均値といいます。

$$\text{平均値}=\frac{\text{データの個々の値の合計}}{\text{データの個数}}$$

【データ】

40　30　20

上のデータの平均値は，30となります。